

令和6年2月16日

加西市議会議長 丸岡弘満 様

建設経済厚生常任委員会行政視察報告書

委員会 建設経済厚生委員会

委員長 中右憲利

下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告いたします。

記

1. 日程

令和6年1月26日（金）

2. 視察先

滋賀県近江八幡市 滋賀県野洲市

3. 参加者氏名

中右憲利、西脇 親、大前裕也、下江一将、高橋佐代子、高見博道、森田博美
浦川（議会事務局随行）

4. 視察内容等

滋賀県近江八幡市（1月26日（金）10：00～12：00）

近江八幡市環境エネルギーセンターについて（別紙詳細）

市議会副議長

市民部環境課

市民部環境課 施設管理グループ

市民部 環境エネルギーセンター

議会事務局

辻 正隆

中嶋課長

梅村課長補佐

川嶋所長

南主幹

滋賀県野洲市（1月26日（金）14：00～15：30）

野洲市民病院の整備計画について（別紙詳細）

市議会議長

市立野洲病院

市立野洲病院 新病院整備課

市立野洲病院 新病院整備課

市立野洲病院 新病院整備課

市立野洲病院 新病院整備課

山本 剛

駒井事務部長

上杵課長

宮本主任

松尾主査

瓜谷専門員

5. 所感

各議員の所感は別紙のとおり

滋賀県近江八幡市（R6年1月26日視察）

視察テーマ：近江八幡市環境エネルギーセンターについて

①建設に至る主な経緯

- ・平成19年度、昭和57年稼働の第2クリーンセンターの老朽化により建替え計画に着手し、用地の選定作業を開始。
- ・平成23年、竹町地先を建設候補地として記者発表。
- ・平成24年、本事業をDBO方式で行うことの実施方針を発表。**【DBO方式とは、施設の所有、資金調達に関しては公共が行い、民間が施設の設計、運営、維持管理を一括して行う方式のもの】**事業用地の用地買収を実施。本事業を特定事業として選定。
- ・平成25年、本事業について、総合評価型プロポーザル方式で事業者募集を開始、優先交渉権者を決定。

②施設概要

【施設整備の基本方針】

- ・安全・安心で経済性に優れた施設づくり。
- ・環境負荷を低減し、地域循環圏の確立と5R推進に寄与する施設づくり。
- ・周辺環境との調和と地域特性に配慮した施設づくり。

【整備運営方式】

- ・建設については、平成25年12月に大栄環境株式会社を代表企業とする大栄・三菱・秋村・極東特定建設共同企業体と契約、設計・建設・運営を一括して任せるDBO方式による一般廃棄物処理施設の建設を進めた。
- ・新施設は、熱回収施設、リサイクル施設、管理棟、計量棟からなる。
- ・熱回収施設は、燃えるごみの焼却、焼却に伴う発電及び温水プールへの熱供給を行う。
- ・リサイクル施設では、資源化物（ペットボトル、缶、びん、古紙類）の選別、圧縮梱包等を行う。
- ・新施設では見学者ルートを設け、環境学習や啓発機能を持ったものとなっている。
- ・施設の運営については特別目的会社である近江八幡エコサービス(株)が担い、民間事業者のノウハウを活用して約20年間運転、維持管理を行う。

【契約内容】

- ・設計・施工（大栄・三菱・秋村・極東特定工事共同企業体）運営（近江八幡エコサービス(株)）
- ・設計施工期間：平成25年12月20日～平成28年7月29日
運営期間：平成28年8月1日～令和18年3月31日（19年8ヶ月）

③候補地の選定について

【候補地の選定から決定までの経緯】

- ・平成19年度より市内全自治会を対象として公募を実施したが、応募なし。
- ・市主導による建設候補地の検討を開始、平成19年度から21年度にかけて3地区を検討したが決定に至らず。
- ・平成22年5月に再度受入意向調査を実施、3地区より受入意向の申出があった。慎重に調査等した結果、竹町地先を候補地として特定。

【地域振興策】

- ・環境まちづくり交付金（総額1億円、有効期間は平成26年度から10年間）を立地自治体に交付。

④施設運営方式について

【DBO方式を採用した理由】

- ・最小の経費で最大の効果を生むことを念頭に整備運営方式を検討する中で、平成19年にPFI導入可能性調査を実施。
- ・その後、整備運営事業者選定等委員会で議論を重ねた。最も普及しているDBO方式について、設計施工運営を一体的に発注するため民間事業者の持つノウハウが発揮できること、また運営を長期包括委託して市がモニタリングを行うことにより、運営事業者が複数年度にわたる業務改善効果を見込んで業務に取り組むことが可能となること、そして財政負担の軽減、運営費の平準化も見込めることからこの方式を導入することになった。

【受託事業者と行政とのリスク分担】

- ・委託費には、各施設の定期整備等の費用、大規模修繕費も含まれている。
- ・施設の稼働は約25年を予定しており、約20年後の契約終了時には、5年間は大規模修繕をしなくていい状態にした上で引き渡してもらおう契約条件になっている。

⑤施設建設費と運営費について

【施設整備費】

- ・施設整備費 6,072,840,000円
- ・循環型社会形成推進交付金 2,251,971,000円（高効率発電[1/2]1,273,141,000円、熱回収施設[1/3]608,289,000円、リサイクル施設[1/3]370,541,000円）
- ・一般廃棄物処理事業債（据置3年 15年償還） 3,200,600,000円
- ・市費 620,269,000円

【運営費】

- ・運営費は、固定費（維持補修費・人件費等）と変動費（電気代・水道代・燃料費・薬剤費等）からなる。
- ・変動費については、単価にごみ処理量を掛けた額を支払うので、ゴミが減量すれば委託料も減少する。

【参考】

- ・運営費：8,416,980,000円（19年8ヶ月の総額） 内 固定費（税抜）365,768,000円/年（固定費には、委託期間における危機の修繕費、改修費を含む。） 変動費（税抜）約1,456円×年間の焼却処理量（t）

【従来とのコスト比較】

- ・老朽化した旧施設が稼働していた時期と比較すると、歳出ベースで約3億円程度の削減になっている。

⑥施設の運営体制

【人員体制】（令和5年4月1日時点）

- ・市職員4名（内、臨時職員3名）
- ・SPC（運営会社） 管理・総務・事務等6名 保全・電気3名 熱回収施設14名（責任者+3名×4班体制、2交代勤務、灰搬出1名） リサイクル施設・計量施設15名 合計38名

【今後の課題】

- ・約20年間の運営期間における、市による運営モニタリングの体制を確立していく必要がある。

⑦令和4年度売電料、売電金額

- ・売電力量：3,436,977kWh 売電金額：42,440,079円

滋賀県野洲市（R6年1月26日視察）

視察テーマ： 野洲市民病院の整備計画について

①新病院整備にかかる経緯

【民間病院の市立病院化～駅前Aブロックでの新築の断念～現地建替えの断念】

- ・野洲市では、旧野洲町時代から民間病院であった野洲病院を地域医療の中核的拠点と位置付け、財政的な支援を継続することで市内の医療サービスを確保してきた。
- ・平成23年に野洲市地域医療における中核的医療機関のあり方を検討し、平成27年に（仮称）野洲市立病院整備基本計画を策定。
- ・平成29年12月～令和元年6月に野洲駅前Aブロックに新築する計画で実施設計を作成。
- ・令和元年7月に民間の野洲病院は市立野洲病院として開院。
- ・令和元年11月、整備費用の高騰により新病院建設工事請負契約 入札不落。
- ・令和2年10月、新市長が誕生。「駅前での新病院整備計画を大幅に見直し、現病院の敷地に半額程度で新病院を建設」を公約とする。
- ・令和3年1月～3月 現病院での建替えの検討。
- ・検証結果⇒一般的には、現地建替えは技術的には不可能ではない。但し、狭隘な現病院において、医療を継続しながらの現地建替えは実現困難となる課題や懸念材料が多い。⇒現地建替えによる病院整備を断念。

【新たな候補地の検討～現状】

- ・令和3年に新たな候補地での検討⇒施設整備可能な一団の市有地かつ早期の着工が見込める場所。
- ・駅前Bブロック案を採用 理由：①当時、最も議会の賛同を得やすい案 ②病院事業債、社会資本整備総合交付金を気にせずに整備可能。
- ・令和4年1月 市議会最大会派より要望書提出「駅前Bブロック整備を断念し別な場所で整備するよう要望」。
- ・駅前Bブロックでは駐車場が40台しか確保できず、車寄せも少ない。⇒新たな整備場所を再度検討することを選択。
- ・残された候補地＝総合体育館で「早期整備」等の条件をクリアできないか。
⇒温水プールの跡地を「発見」。

【総合体育館東側市有地について】

- ・野洲市の中央（車でのアクセスに優れている。市内全域から10分以内）
- ・静かな環境・開けた眺望（市街化区域に隣接しており、へんぴな場所ではない。野洲駅から2.2km）
- ・既存の市有地（新たな土地取得費が不要）⇒駅前Aでは土地取得費10億7000万円必要。
- ・敷地面積：約14,600㎡ 病棟部分：約7,250㎡（候補地の中で一番広い）
- ・埋蔵文化財の対象区域外（着工まで早い）
- ・駐車場は、総合体育館と共用で700台（敷地外含む）

【落札事業者の決定】

- ・令和5年、入札方法：総合評価方式による一般競争入札（総合評価落札方式により、落札者を決定するにあたり、学識経験者、医療関係者等により構成される「選定委員会」（6名）を設置し、入札参加者の技術提案について審査を行った。
- ・落札者：熊谷組関西支店・奥田工務店特定建設工事共同企業体・内藤建築事務所・滋賀県建築設計管理事業協同組合設計共同体グループ
- ・落札金額：8,219,000,000円（税込み）（予定価格：9,670,000,000円（税込み））

②発注方式と整備スケジュール

- ・新病院整備にかかる発注方式については、整備スケジュールが速やかなことと、世界情勢により不安定化している材料調達の確度が高いことに鑑みて、「基本設計デザインビルド方式」（受注者が施設の設計（基本設計及び実施設計）、工事、工事管理等の業務を一括して行う方式）
- ・令和4年度：基本構想・基本計画
令和5年度～6年度：基本設計・実施設計
令和6年度～8年度：建設工事
令和8年度：移転・開院

③新病院の概要

☆目指す病院像（主な役割）

- ・中軽症の急性期患者に対応（1・2次救急）
- ・医療連携により高度急性期病院と在宅医療をつなぐ
- ・疾病予防や早期発見、リハビリテーション医療の充実
- ・在宅医療の実施と診療所の後方支援
- ・災害や感染拡大時に市民の安心を確保

☆診療科の構成計画

- ・内科（総合内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科等）
- ・整形外科・外科・婦人科・眼科・泌尿器科・小児科・リハビリテーション科・麻酔科・放射線科・人工透析

☆病床規模と構成

病床機能の区分	計画床数	現野洲病院
急性期病床	60床	110床
地域包括ケア病床	49床	48床
回復期リハビリテーション病床	50床	41床
障害者病床	40床	—

※障害者病床は、加齢に伴う神経系の難病による障害患者を主に受け入れる病床。

④概算事業費

- ・概算の病院整備費用については2024年1月9日時点で、建設工事費115億、設計管理費4.6億、準備工事費1.9億、周辺駐車場にかかる用地取得費0.1億、その他医療機器・什器・事務費・移転費等で10.7億、合計で132.3億となっている。
- ・これは当初の概算事業費から相当膨らんでいるが、関西万博の影響で材料費、工事費等が高騰している影響と担当者は考えている。

〔所感〕 中右憲利

【滋賀県近江八幡市】 近江八幡市環境エネルギーセンターについて

- ・最近の廃棄物処理場はクローズドシステムといって、施設内で発生した匂い、汚水などが施設外に出ない仕組みになっていて、焼却も 850 度以上の高温で処理することによりダイオキシン等の有害物質が発生しないとのこと。
迷惑施設として人里離れた所に作る必要はないが、やはりゴミ収集車等が頻繁に出入りするということもあって、地元自治会には環境まちづくり交付金として 1 億円を交付している。
エネルギーセンター内には充実した環境学習用の施設があり、又ごみの減量については広報やタウンメールで発信し、生ごみ処理機購入の補助金額を上げて力を入れている、いい取り組みだと思うし、成果も出ているということであった。
周辺環境整備としてサッカー場や焼却炉の熱を利用した温水プールがあり、エネルギーセンターとは別施設として指定管理方式で運営されている。住民要望ではなく、市がエネルギーセンターと一体のものとして整備したもので、やはりこういう施設には環境整備として必要なものと思う。整備・運営に関しては、施設の所有、資金調達に関しては公共が行い、民間が施設の設計・建設・運営・維持管理を一括して行う DBO 方式により進められている。いい方式と思うが、約 20 年間の運営期間における市によるモニタリング体制の確立が必要ということであった。
老朽化した施設と比較して、歳出ベースで最大約 3 億円の削減となっている。売電収入も令和 4 年度で約 4200 万円ということ、周辺整備も含めてきれいで効率的、環境学習、啓発活動にも力を入れている廃棄物処理場という印象であった。

【滋賀県野洲市】 野洲市民病院の整備計画について

- ・もともと民間の病院を市立野洲病院とし、その後駅前に野洲市民病院を新築するという計画。
- ・前市長のもと、駅前商業地に新病院を建設しようとするが、事業費高騰等により議会が予算を否決する等して進まず、新市長が現地で建替えを公約として当選するも、難問山積で頓挫。駅前の市有地に変更しようとするが、駐車場が 40 台しか取れず、議会の理解を得られずこれも断念。最終的に総合体育館横の温水プール跡地に決まったという新病院整備計画の経緯。
- ・議会は市長の提案に対して正しい仕事をしたと思う。特に新市長が駅前の駐車スペースが 40 台しか取れないところに新病院を建設しようとしたときに、それをきちんと止めたことは大正解で、そのまま行っていたら今頃大変なことになっていたのではないかと思う。
- ・新しい市長は成果を求めるあまり、性急に事を進めようとするが、そこは議会が正しく判断して賛成すべきは賛成し、反対すべきは反対するのが役目と思った。
- ・最終的に決まった場所は、市の中央で野洲駅から 2.2km という好立地、しかも市有地で土地の取得費が不要、埋蔵文化財の対象区域外で着工までが早い、駐車場は総合体育館と共用で、700 台取れるという理想的な場所、10 年以上の年月をかけた甲斐があったというもの。
- ・しかし概算事業費が「広報やす 特別号 2023 年 1 月発行」では、93.6 億円となっていたのが、1 年後の 2024 年 1 月 9 日時点で 132.3 億円に跳ね上がっている。
- ・担当者の見解では関西万博の影響を受けて材料費、建設費等が値上りしているということだが、今後も問題は色々ありそう。しかしそれらをクリアして、市民が誇れるような素晴らしい野洲市民病院を創っていただきたい。

〔所感〕 西脇 親

【滋賀県近江八幡市】 環境エネルギーセンターについて

広域化も検討されたとのことであったが、最終的には当該市での整備となった。一般廃棄物の処理の際に出る焼却熱を利用した発電により、施設の電力を賄い、余剰分を売電、更に余熱を利用して隣接する温水プールの温水や空調、床暖房に活用し、市民の健康増進に役立てられている。DBO方式による整備および運営であり、コンパクトで高効率な発電設備は余熱も無駄なく活用されていること等、非常に参考となった。

受託事業者と行政のリスク分担については、大規模改修費を委託料に含めており、約20年後の契約終了時には、5年間は大規模改修を必要としない状態で引き渡してもらう契約内容となっている。施設整備の基本方針の一つに掲げられている「環境負荷を低減し、地域循環圏の確立と5R推進に寄与する施設づくり」は、今後の施設整備には欠かせない方針であると思われる。

また、施設を運営する近江八幡エコサービス(株)は、大栄環境(株)、三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)、市内の建設業者である(株)秋村組、三重中央開発(株)の出資によるものであった。

【滋賀県野洲市】 野洲市民病院の整備計画について

平成23年4月、当時、民間病院であった野洲病院が新病院基本構想2010を提案されて以降、13年間、市長交代とともに紆余曲折を経て、野洲市総合体育館東側市有地の敷地1万4600㎡を建設地として、2026年11月30日までの工期で整備が進められている。民間病院が公立病院に移行したという経緯についての違いがあるものの、市立加西病院とは、現行の耐震基準を満たしていない旧耐震基準で建築された東館があること。現病院において医療を継続しながらの現地建替えは、実現困難となる課題や懸案事項が多いことから現地建替えによる整備を断念したこと。病院規模が199床と同規模であること等が共通点としてある。

これまでの10年間も議会、市民、関係機関への度重なる説明を行われてきたわけであるが、令和4年度に最終的な予定地を発表された後にも10回にも及ぶ市民説明会を開催し、賛否両論の意見を聞いた上で、予定地の合理性を周知されている。ここには、病院事務部長以下事務局職員の高度な知識に加え、諦めない姿勢、柔軟で臨機応変な対応能力、交渉力があり、特筆すべきものである。

現在、資材の高騰に加え、万博の影響もあることから、事業費が膨らむことが想定されるため、加西市においても、野洲市民病院の「基本設計デザインビルド方式」を参考にしながら、市民の安全・安心を支え、社会の変化に対応できる病院であり続けるために、早期の施設建替えを進める必要がある。

また、兵庫県と医師を取り巻く環境は異なるものの、医師確保に関しては共通の課題であるが、野洲市民病院では、滋賀医科大学との共同研究講座をはじめとする連携強化は参考にしたい対策であった。

所感 大前 裕也

【近江八幡市 環境エネルギーセンターについて】

近江八幡市の焼却炉見学したことに対し、感想を述べます。非常に合理的な施設であると思います。また施設は計画時より民間企業の力を借り企画システムを構築したものであり、完成した償却の管理運営についても、当該民間企業に近江八幡市の方から運営委託しています。当該民間企業は、文字通り阪神地区で長年にわたり廃棄物の処理を出かけてき、なおかつ、阪神地域でも処理工場して民間でビルではありますが、産業廃棄と受け入れを積極的にやっている会社であり、長年にわたり蓄積し、ノウハウがあります。そのため、焼却炉の企画設計段階から近江八幡市と一緒に取り組んでおられたと考えます。そういう意味では近江八幡市さんは良いところと組み計画したと思います。私の考えですが、今回予定している小野加東加西合同で小野市にできる焼却炉については焼却施設を作る前に、産業廃棄物の処理について、かなり知識のある会社と組むのが1番かと思いますが、私自体小野市さんがどの企業と組んでいるかがわからないので、安易なこと言えませんが、私大前の考え方はやはり阪神間では、トップクラスの民間企業と組まれる方が素晴らしい施設ができると考えます。

【野洲市 野洲市民病院の整備計画について】

今回、野洲市の病院に関する完成までの流れを野洲市民病院の新病院整備課の職員の方から説明受けました。やはり 2、3 転と病院候補地についてもなかなか確定せず、時間を要しご苦労されたようです。

結論として、新病院建設については、多面的ないろんな意見があるためなかなか決定しづらい事案であるということを説明され、建設費に加えて時間も非常にかかるため、本当の意味での最終合意がなかなか決められないのが現状だったと思います。そういう中、説明いただいた 4 人の職員並びに関係者の皆さんで苦労されながらも新病院建設にまでいたり、現在は立派に新病院へ引き継ぐべく現市立病院の経営を確立し、良い病院を運営されています。

ともかく、説明を伺えば何うほど大変なことだと思いました。加西市も新病院建設までには、まだまだ長い道のりがあるかと思いますが、関係者におかれましては、相当なる覚悟と努力を持って何とか成功させて欲しい事案であると思います。相当な勉強をし、取り組まないと成功はなし得ないと考えます。

〔所感〕 下江 一将

【滋賀県近江八幡市】環境エネルギーセンターについて

熱回収施設では排ガスに含まれる有害物質を除去することや煙突から出る白煙の発生を防ぐための設備が置かれ、環境への負荷軽減に取り組まれていた。また、プラットホームの出入口扉にエアカーテンを設置することで臭気が外部に出ることを防がれており、かつての危険施設とも言われた印象は解消されていると説明があった。小野加東加西環境施設事務組合で進めている広域ごみ処理の新施設においても公害対策が十分に検討される必要があると考える機会となった。

また、隣接地には都市公園が建設されており、その温水プールは熱回収施設から発生した余熱を熱源として利用し、運営されている。また、グラウンド・ゴルフ場やサッカー場、スケートパークなどの施設もふるさと納税を財源に整備されており、「地域からは喜ばれる取り組みとなっている。」と説明があった。広域ごみ処理の新施設も地域から喜ばれる取り組みに繋がることを期待する。

私自身、今回の視察が初めて現場を見る機会となった。上記した内容を実現するために他の方法も学びながら意見していけるように努めていく。

【滋賀県野洲市】野洲市民病院の整備計画について

民間の病院から譲渡を受けられ、市立病院として開院された経緯もあり、医師の確保（紹介）に難しさがあった。また、新病院の整備についても建設候補地が3回見直されたことで医師会からの評価が大幅に落ち、常勤の医師が辞めることにも繋がっている。野洲市では医師と共同研究の機会を持つことで一定の信頼回復に繋がりがつつある。

本市においても計画の見直しは医師会との信頼関係づくりから医師の確保に悪い影響を与えることが懸念される。意見交換などのコミュニケーションを強化し、相互のニーズの理解深め、透明性のある情報共有に努める必要がある。

市民に対しては計10回の説明会が開催され、そこで抽出された懸念点についても理解を得られるように取り組まれ、市広報やHPにて周知が行われている。また、来院の移手段については調査をされ、合理性のある場所を選定されている。

本市でも基本的な計画を考える上で「新しい加西病院を考える市民ワークショップ」が5回開催されているため、計画を見直すにあたっては、ワークショップで出た意見については反映していくべきである。また、新たな計画を考えるにあたっては丁寧な市民の意見を聞き、理解が得られる内容を示していく必要がある。物価高騰の影響もあり、新病院整備に伴う費用に不安がある。また、土地の選定も行っていく必要がある。課題が山積する中で政治的な混乱を招かないよう、然るべき説明や手続きが行われるように確認をしていく。

「所感」 高橋佐代子

【近江八幡市】環境エネルギーセンターについて

近江八幡市。人口81,860人、世帯数35,544世帯（令和5年12月31日現在）。
177.45平方km

最初に小学4年生の見学用にDVDの上映。施設見学、資料による説明と質疑。施設見学の際、各処理工程で詳しい説明があり、最新の設備は臭いもなくいい環境と思った。資料説明では、ごみ減量のための5Rの実施が大切であることを実感する。また、子どもが少なくなり資源ごみの回収が困難になっていることや、転入者へのゴミ出しマナーの徹底にも苦慮されているとのこと。

センターでは、焼却時の火災事故もあり、原因はリチウム電池らしいとのこと。その際は炉の稼働を半日休止して対応し、マナーの徹底の大切さを認識したとのこと。生ごみの減量は「ひと絞り運動」はもちろんのこと、果物類の皮等は日干しの協力もお願いしているとのことだった。ごみ減量機器の補助金を充実させているとの説明だった。（後日補助金支給一覧をお願いした）。大変参考になった。

【野洲市】野洲市民病院の整備計画について

野洲市。人口50,709人、世帯数21,593世帯（令和6年1月1日現在）。80.14平方km

平成23年4月から令和5年11月までの「新病院基本構想2010」提案以降の経緯の流れについて、資料により詳しく説明を受けた。土地選定について紆余曲折がある中、令和2年10月市長交代による新市長の公約により、駅前での新病院整備計画を大幅に見直し、現病院の敷地に半額程度で新病院を新築する方向となったが、現地建て替えは技術的には不可能ではないが、医療を継続しながらの現地建て替えは現実困難となる課題や懸案事項が多いことから断念。駅前案について修正実施計画の一時中止、契約解除となった。これらも含め、病院整備にかかるこれまでの経緯についても詳しい説明があった。

令和5年11月入札により82億1千9百万円で事業者決定（基本設計デザインビルド方式を採用）。事前をお願いしていたこちらの質問もわかりやすく答弁をいただいた。その他の質問として、新病院に産婦人科がなく婦人科になっていることや高齢化に伴い認知症外来の開設について質問をした。これは、三名の医師で対応予定とのこと。加西市の病院移転建て替えの大変参考となった。いい視察研修だったと思う。

〔所感〕 高見博道

【滋賀県 近江八幡市】

近江八幡市環境エネルギーセンターについて

近江八幡市では昭和57年より稼働の前クリーンセンターの老朽化に伴い平成19年より建て替え計画を開始している。調査研究を進められ平成24年に本事業をDBO方式（公設民営方式）で実施方針を決定している。

「近江八幡市環境エネルギーセンター」のケースでは、近江八幡市が施設の所有及び設計・施行にかかる資金調達を担い、設計（Design）・施工（Build）・運営（Operate）を一括して民間事業者が発注している。

建設場所については、クリーンセンターのような施設は一般住居地域と離れた場所に建設されることが多いが、安全安心で環境負荷を低減した地域循環環境を確立することにより住居地域と離れていない場所に建設することができている。

また、熱エネルギーの再利用により隣接する温水プール施設のある都市公園「健康ふれあい公園」もあり地域の憩いの場所にもなっている。

加西市においても、小野市・加東市とのクリーンセンターの建設計画があるがクリーンセンターの在り方について大いに参考にしたい点が多数感じられた。

【滋賀県 野洲市】

野洲市民病院の整備計画について

野洲市の病院整備計画で、旧野洲町時代から民間の野洲病院を地域医療の中核的医療施設として財政的な支援をし、市内の医療サービスを確保してきたという。

平成23年より野洲市地域医療における中核的医療機関の在り方が検討され、民間病院を市民病院に変えるという、あまり一般的にはない形で新病院の建設計画が進んでいる。

また、基本構想・基本計画策定後に何度も予算の否決があり、建設場所についても新たな建設予定地野洲駅前Aブロックから、市長が変わられたこともあり現地建替えへと変更したが、現病院の医療を継続しながらの現地建替えは、実現困難となる課題や懸念事項が多いため現地建替えにより病院整備を断念される。新たな駅前Bブロック案も否決になり、最終的に令和4年8月に総合体育館横で基本構想・基本計画（総合体育館横）が出され、令和5年11月に病院整備事業者決定・契約締結にいたる。

加西市においてもこれから新たな病院の建設場所の決定がなされるが、加西市民にとって本当に必要とされる病院を目指すことが重要だと思われる。

①近江八幡市『環境エネルギーセンターについて』

本格稼働から8年目のセンターは、施設整備の3つの基本方針が達成され、整備運営もDBO方式で公民一体の事業の成功例となっている。契約金額は税込み約145億円、建物本体の周辺整備と駐車場の適切な配置で、地元自治体からは受け入れて良かったとの評価も出ていて参考になる。

これまで大きなトラブルはなかったが、昨年可燃ごみのピット内で火災が発生して半日稼働停止したが大事にはいたらなかったとの説明があり、原因は特定されていないが、録画の分析からごみに混ざったりリチウム電池の発火説が有力で、通常の稼働の現状報告に加えて些細なトラブル等もタウンメールを活用して情報発信をされている。施設受け入れ地元には、10年間を区切り総額1億円の環境まちづくり交付金を用意してきたが、ほぼ満額になりつつある。地元との関係は極めて良好との説明である。

排ガス基準は、法規制をさらに厳格に要監視基準値を設けて安心安全な施設の確保を図り、ダイオキシン類は燃焼管理され、ごみピット内の空気（臭気）は焼却炉の燃焼用空気として使用しているため臭いが外部に漏れない。施設内で発生した汚水は、施設内で循環させて使用するクロードシステムが採用されて外部に出ない仕組みになっている。これまでごみ焼却の経験が生かされた施設であり、それらの取り組みが立地自治会との良好な関係を築いているとのこと、大変参考になった。

旧施設より約3億円の経費削減、年度にばらつきがあるが売電約4千万円、『生ごみ』は出す前に一搾り、二搾りの励行を市民にお願いしているが、やっのごみ削減の効果が図られ、センターへの搬入量減量につながっている。

②野洲市『野洲市民病院の整備計画について』

まずは、市立野洲市民病院事務部長はじめ担当者4名の懇切丁寧な説明、事前提出して質問への回答、質疑応答への手厚い対応に感謝します。大変、参考になりました。

新病院基本計画の基本設計予算に議会が否決、新市長による建設候補地の変更、二転三転する候補地の選考等、担当部局の苦労は大変だったと感じた。政治的な混乱から、医療従事者のモチベーション低下は避けられず、特に常勤医師の離職は多数あったとのこと。当然な流れだったのでしょう。それでも、滋賀医科大学と京大等の関係は羨ましい限り。大学との共同研究講座の開講等は、混乱した経過からの信頼回復を図ることになり、関係強化策の展開は学ばなければならないと思う。

基本設計から実施設計、そして建設工事までを一括発注できる基本設計デザインビルト方式の採用は、整備スケジュールの短縮化と物価高対策にもなり検討すべきと思われる。今回の視察は、加西市そして加西市議会にとってもタイムリーな学びの多い内容でした。